

社会学部の教員の養成の目標

<社会学部 社会学科 社会学専攻>

社会学部社会学科社会学専攻では、学部の教育理念である「伝統と革新の調和」「専門性と学際性の調和」、そして教育目標である「理論研究と実証分析の調和」のもと、私たちが生活する場であり、私たちが自分たちの手で創りあげた産物である「社会」について、私たちが「常識」と思っていることが、<いつの時代でも、どんな社会でも、あらゆる人にあてはまることだろうか>と問い直してみるという発想法でそのしくみの研究にアプローチし、<いま・ここ>を相対化することで、私たちの生活を強く拘束している力のはたらきを知り、日常的な現象を総合的に把握して問題解決の糸口を見出すことのできる人材の育成を目指している。

この教育理念のもと、(1) a. 教養教育を基礎に専門教育を修めることを通して、理論と実際を学び、専門性と総合力をバランスよく身に付け、その学びの中で得た「考える力」と現実の社会の中で「生きていく力」を発揮できる技能、b. 各専攻の学問領域における概念や理論を用いて社会の課題を解決するために求められる知識や技能を活用できる素養、(2) a. グローバル社会における多様な価値観やものの見方に柔軟に対応する中で、他者の意見を傾聴し、自らの考えを発信することができる能力、b. 社会的現実への的確な観察と専門的知識に基づき、「考動力」を基盤として問題を解決し、新たな価値を創出することができる能力、(3) a. 周囲の人間や社会情勢を理解及び把握する意義を見出し、的確に評価することができる素養、b. 社会的伝統の尊重から一歩先に進む創造力、伝統への深い理解と洞察に基づきながら果敢に新しい社会領域に主体的に挑むことができる態度、c. 個人をこえ、集団や、より大きな社会、世界を視野に含めてものごとを考えることができる態度をそれぞれ身に付けるとともに、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びにそれらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

(社会学部 社会学科 社会学専攻 中一種免 社会)

基礎となる学部専門教育において、専攻制(社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻)を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりをもつ、(3)調査、実験及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、社会学専攻では、「社会の仕組み」「文化と社会関係」「社会問題と福祉」という3つの側面からさまざまな社会現象や社会問題をひろく学び、身近で小さな出来事が出発点でも、社会のしくみについての知識や、見えづらい社会の姿を確実に捉える調査の技術・方法を身に付け駆使することで、より大きな問題への理解を深め、解決の道を見出すとともに、複雑にからみあった今日の社会を生き抜くうえでの大きな力を養成している。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、中学校「社会」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)わが国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(社会学部 社会学科 社会学専攻 高一種免 地理歴史)

基礎となる学部専門教育において、専攻制（社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻）を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を發展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりを促す、(3)調査、実験及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、社会学専攻では、「社会の仕組み」「文化と社会関係」「社会問題と福祉」という3つの側面からさまざまな社会現象や社会問題をひろく学び、身近で小さな出来事が出発点でも、社会のしくみについての知識や、見えづらい社会の姿を確実に捉える調査の技術・方法を身に付け駆使することで、より大きな問題への理解を深め、解決の道を見出すとともに、複雑にからみあった今日の社会を生き抜くうえでの大きな力を養成している。これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、高等学校「地理歴史」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(社会学部 社会学科 社会学専攻 高一種免 公民)

基礎となる学部専門教育において、専攻制(社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻)を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりを促す、(3)調査、実験及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、社会学専攻では、「社会の仕組み」「文化と社会関係」「社会問題と福祉」という3つの側面からさまざまな社会現象や社会問題をひろく学び、身近で小さな出来事が出発点でも、社会のしくみについての知識や、見えづらい社会の姿を確実に捉える調査の技術・方法を身に付け駆使することで、より大きな問題への理解を深め、解決の道を見出すとともに、複雑にからみあった今日の社会を生き抜くうえでの大きな力を養成している。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、高等学校「公民」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う、(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

<社会学部 社会学科 心理学専攻>

社会学部社会学科心理学専攻では、学部の教育理念である「伝統と革新の調和」「専門性と学際性の調和」、そして教育目標である「理論研究と実証分析の調和」のもと、「なぜそう感じるのか」「なぜこの行動が起きるのか」といった、心のしくみの疑問や不思議に対し、「仮説の提示」と「事実による検証」によって科学的に解明することで、心理学の目的である人間の心の理解に取り組み、これらの心についての一般的、科学的な理解が、さまざまな問題の改善や解決に直結しないことがあっても、複雑な世界で生きていく人々にとって重要な課題である人と社会における心の問題を、多様なアプローチから探求し理解することのできる人材の育成を目指している。

この教育理念のもと、(1) a. 教養教育を基礎に専門教育を修めることを通して、理論と実際を学び、専門性と総合力をバランスよく身に付け、その学びの中で得た「考える力」と現実の社会の中で「生きていく力」を発揮できる技能、b. 各専攻の学問領域における概念や理論を用いて社会の課題を解決するために求められる知識や技能を活用できる素養、(2) a. グローバル社会における多様な価値観やものの見方に柔軟に対応する中で、他者の意見を傾聴し、自らの考えを発信することができる能力、b. 社会的現実への的確な観察と専門的知識に基づき、「考動力」を基盤として問題を解決し、新たな価値を創出することができる能力、(3) a. 周囲の人間や社会情勢を理解及び把握する意義を見出し、的確に評価することができる素養、b. 社会的伝統の尊重から一歩先に進む創造力、伝統への深い理解と洞察に基づきながら果敢に新しい社会領域に主体的に挑むことができる態度、c. 個人をこえ、集団や、より大きな社会、世界を視野に含めてものごとを考えることができる態度をそれぞれ身に付けるとともに、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びにそれらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

(社会学部 社会学科 心理学専攻 高一種免 公民)

基礎となる学部専門教育において、専攻制（社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻）を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりを促す、(3)調査、実験及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、心理学専攻では、社会心理、産業心理、認知心理、臨床心理、心理測定など多岐の分野にわたる心理学を学び、実験実習では、自分の知りたいことを明らかにするためにどのようなデータが必要で、データをどのように集め、分析し、解釈するのかを考えながらまとめるという一連のプロセスを確実に修得するとともに、自身の興味のあるテーマに関して深く考え、日常で疑問を感じている心と行動のパターンやメカニズムに対し、多様なアプローチでせまることで、社会に出ても応用可能な「こころ」のしくみを解き明かす力を養成している。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、高等学校「公民」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う、(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

<社会学部 社会学科 メディア専攻>

社会学部社会学科メディア専攻では、学部の教育理念である「伝統と革新の調和」「専門性と学際性の調和」、そして教育目標である「理論研究と実証分析の調和」のもと、テレビや新聞、ラジオ、雑誌、広告、音楽からインターネットやSNSまで、現代社会において大きな影響力をもつメディアを学ぶことで、コミュニケーションとメディア社会の本質を理解し、メディアを読み解く知、メディアで伝える技法、メディアを活かす新たな想像力など、次代を拓く「メディアマインド」を身に付け、これらの知識を活用していくことのできる人材の育成を目指している。

この教育理念のもと、(1) a. 教養教育を基礎に専門教育を修めることを通して、理論と実際を学び、専門性と総合力をバランスよく身に付け、その学びの中で得た「考える力」と現実の社会の中で「生きていく力」を発揮できる技能、b. 各専攻の学問領域における概念や理論を用いて社会の課題を解決するために求められる知識や技能を活用できる素養、(2) a. グローバル社会における多様な価値観やものの見方に柔軟に対応する中で、他者の意見を傾聴し、自らの考えを発信することができる能力、b. 社会的現実への的確な観察と専門的知識に基づき、「考動力」を基盤として問題を解決し、新たな価値を創出することができる能力、(3) a. 周囲の人間や社会情勢を理解及び把握する意義を見出し、的確に評価することができる素養、b. 社会的伝統の尊重から一歩先に進む創造力、伝統への深い理解と洞察に基づきながら果敢に新しい社会領域に主体的に挑むことができる態度、c. 個人をこえ、集団や、より大きな社会、世界を視野に含めてものごとを考えることができる態度をそれぞれ身に付けるとともに、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びにそれらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

(社会学部 社会学科 メディア専攻 中一種免 社会)

基礎となる学部専門教育において、専攻制（社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻）を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりを促す、(3)調査、実験及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、メディア専攻では、「マスコミ・ジャーナリズム系」「広告・広報系」「インターネット・コミュニケーション系」「メディア文化系」という4つの領域を柱に、多様で幅広い科目群からメディア現象とその変化を捉える「メディアを読み解く知」を学ぶと同時に、多くの実習やプログラムを通して「メディアで伝える技法」を学び、この両輪を活かしながらメディア社会で活躍するうえで必要な実践的な能力と次代を拓く「メディアマインド」を養成している。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、中学校「社会」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)わが国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(社会学部 社会学科 メディア専攻 高一種免 公民)

基礎となる学部専門教育において、専攻制（社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻）を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりを促す、(3)調査、実験及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、メディア専攻では、「マスコミ・ジャーナリズム系」「広告・広報系」「インターネット・コミュニケーション系」「メディア文化系」という4つの領域を柱に、多様で幅広い科目群からメディア現象とその変化を捉える「メディアを読み解く知」を学ぶと同時に、多くの実習やプログラムを通して「メディアで伝える技法」を学び、この両輪を活かしながらメディア社会で活躍するうえで必要な実践的な能力と次代を拓く「メディアマインド」を養成している。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、高等学校「公民」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う、(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

<社会学部 社会学科 社会システムデザイン専攻>

社会学部社会学科社会システムデザイン専攻では、学部の教育理念である「伝統と革新の調和」「専門性と学際性の調和」、そして教育目標である「理論研究と実証分析の調和」のもと、社会学部においてビジネスや経済を学ぶことによって、社会の問題を自分で見つけ出し、解決策を考える、あるいは社会の動きや実社会で起きているさまざまな事象を素早くキャッチし、分析することで実生活に役立つ政策を提案するなど、新しい社会像を作る＝「デザインする」ことのできる人材の育成を目指している。

この教育理念のもと、(1) a. 教養教育を基礎に専門教育を修めることを通して、理論と実際を学び、専門性と総合力をバランスよく身に付け、その学びの中で得た「考える力」と現実の社会の中で「生きていく力」を発揮できる技能、b. 各専攻の学問領域における概念や理論を用いて社会の課題を解決するために求められる知識や技能を活用できる素養、(2) a. グローバル社会における多様な価値観やものの見方に柔軟に対応する中で、他者の意見を傾聴し、自らの考えを発信することができる能力、b. 社会的現実への的確な観察と専門的知識に基づき、「考動力」を基盤として問題を解決し、新たな価値を創出することができる能力、(3) a. 周囲の人間や社会情勢を理解及び把握する意義を見出し、的確に評価することができる素養、b. 社会的伝統の尊重から一歩先に進む創造力、伝統への深い理解と洞察に基づきながら果敢に新しい社会領域に主体的に挑むことができる態度、c. 個人をこえ、集団や、より大きな社会、世界を視野に含めてものごとを考えることができる態度をそれぞれ身に付けるとともに、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びにそれらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

(社会学部 社会学科 社会システムデザイン専攻 中一種免 社会)

基礎となる学部専門教育において、専攻制(社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻)を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりを促す、(3)調査、実験およびフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、社会システムデザイン専攻では、理論的な考え方や調査の技術などを教室で体系的に学ぶほか、経営者を招いてのディスカッション、企業見学や工場見学、地域のボランティア、フィールドワークなど、実社会とのつながりを重視した多くのビジネスや経済の科目を開設し、社会学部にいながら経済学や経営学を同時に学ぶことで、社会と経済の関係、社会のしくみ、私たちの働き方や生活など、社会の「今」とビジネスの「現場」に関して知識を深め、「ビジネス社会」「地域・国際社会」「ネットワーク社会」という現代社会の3つの領域の課題解決にチャレンジできる、実社会においても、あるいは国際的にも通用するスキルを養成している。

これらの系統立てた学びの中で、豊かな教養と高度で深い専門的知識を獲得することで学位プログラムを認定している。中学校「社会」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識、能力を基盤としながら、(1)わが国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究、解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(社会学部 社会学科 社会システムデザイン専攻 高一種免 地理歴史)

基礎となる学部専門教育において、専攻制（社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻）を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりを促す、(3)調査、実験及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、社会システムデザイン専攻では、理論的な考え方や調査の技術などを教室で体系的に学ぶほか、フィールドワークはもちろん、経営者を招いてのディスカッション、企業見学や工場見学、地域のボランティアなど、実社会とのつながりを重視した多くのビジネスや経済の科目を開設し、社会学部にながら経済学や経営学を同時に学ぶことで、社会と経済の関係、社会のしくみ、私たちの働き方や生活など、社会の「今」とビジネスの「現場」に関して知識を深め、「ビジネス社会」「地域・国際社会」「ネットワーク社会」という現代社会の3つの領域の課題解決にチャレンジできる、実社会においても、あるいは国際的にも通用するスキルを養成している。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的知識を獲得することで学位が与えられる。高等学校「地理歴史」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(社会学部 社会学科 社会システムデザイン専攻 高一種免 公民)

基礎となる学部専門教育において、専攻制（社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻及び社会システムデザイン専攻）を基盤に、すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進することを学部教育の柱としている。この柱に対し、(1)学生の幅広い興味に対応できるよう、それぞれの専攻の全学年に学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、専門的知識の向上を図る、(2)学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻科目の履修を認めることで学生の視野の広がりを促す、(3)調査、実験及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図るなど、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性に基づく真の学際性の実現並びに理論と実証の調和を達成できる力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、社会システムデザイン専攻では、理論的な考え方や調査の技術などを教室で体系的に学ぶほか、フィールドワークはもちろん、経営者を招いてのディスカッション、企業見学や工場見学、地域のボランティアなど、実社会とのつながりを重視した多くのビジネスや経済の科目を開設し、社会学部いながら経済学や経営学を同時に学ぶことで、社会と経済の関係、社会のしくみ、私たちの働き方や生活など、社会の「今」とビジネスの「現場」に関して知識を深め、「ビジネス社会」「地域・国際社会」「ネットワーク社会」という現代社会の3つの領域の課題解決にチャレンジできる、実社会においても、あるいは国際的にも通用するスキルを養成している。豊かな教養と高度で深い専門的知識を獲得し、学位を得るためにこれらの系統立てた学びが配置されている。高等学校「公民」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う、(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシ

ップを発揮しうる教員を養成する。